

## 駿河ほねほね団報告

佐々木彰央

本年度から駿河ほねほね団は骨格標本の作製プロジェクト「頭骨以外の骨からでも同定できる骨格標本ライブラリの作製」を公益財団法人日本科学協会の笹川科学研究助成を受けて実施します。対象動物は静岡県産モグラ類（トガリネズミ目、ハリネズミ目）の全10種です。また、「骨格標本の新たな展示手法の開発」には上記10種と、これまで作製してきたニホンジカやイノシシ、ツキノワグマなどの骨格も活用して、充実した展示物を作っていきたいと考えています。各種モグラの仲間の収集は静岡県知事の許可を得て行い、各標本の情報は静岡県レッドリストに提供します。実施場所は“ふじのくに地球環境史ミュージアム”です。

プロジェクト第1回目は5月15日（日曜日）午前10時から午後4時に行いました。参加者は佐々木彰央・高山達子・榊原英幸・本多佐おり・馬越初美・高田歩の6名でした。骨格標本ライブラリ作製のために、佐々木・高山・本多・馬越はコウベモグラを、榊原はカワネズミを解剖室にて剥皮・除肉しました。そして、高田はミドルヤードの骨学教室にてニホンジカの骨格標本を組み立てる様子を来館者に公開しました。以下に参加者のコメントを記します。

・高山達子「コウベモグラの肩の造りに驚嘆しました。肩甲骨の形状が今までみた哺乳類とまったく違っていて、前脚で土を掘ると狭いトンネル生活に、適応するためにすごい努力が重ねられたのだと思いました。肩の筋肉が発達しているというのは知識としては知っていましたが、実際に見て、その筋肉量に圧倒されました。また、それに比べて、後脚の筋肉と骨格の貧弱さにも驚きでした。」

・榊原英幸「小骨が折れるか、関節が外れるかの瀬戸際感がたまらない！外した骨たちを順番通り並べるときの充足感がたまらない！新しいズボンに漂白剤を落とすつつ老眼と闘っている自分がたまらない！何れにせよ、日常から隔離される時間と空間がたまらない！」

・本多佐おり「コウベモグラの毛皮と内臓を除去し、頭部を取り外しメスやハイターなどを使い除肉をしました。モグラの中では大型というコウベモグラですが、自分がいままで解剖に参



真剣に骨格標本作りに取り組む様子

加した動物の中ではかなり小さい方だったので、骨も繊細で見ると壊れやすそうと緊張しました。案の定、自分は頬骨弓を折ってしまい悲しい思いをしました。また、肩の筋肉が非常に発達しているのと、短い前腕に大きな手、それと隆起している肩甲骨が印象的でした。今回、この感想を書くのに、頬骨弓という名前が分からなくて、インターネットでモグラの骨格について調べていたら、モグラは手根骨や指の関節がとても頑固らしい事と、手に独特の三日月形の骨がある事を知りました。鎖骨も特徴的みたいなので、次回以降もとても楽しみにしています！」

・馬越初美「常日ごろトンネル工事に励んでいる働きもののモグラ。なかなかトンネルの外で見る機会はないので今回とても楽しみにしていました。小さな後足に比べ大きく大きい前足や、強大な胸の筋肉を実際に目にし、モグラは土をかき分けるのに最適化された体の構造をしていることがよく理解でき大変興味深かったです。」

・高田 歩「今回はニホンジカ（1歳オス）の骨格を組み立てる作業を行ないました。頭骨から尾椎にかけては以前に固定済でしたので、今回は各肢の骨にドリルで穴を開け、針金を通して連結・固定する作業を行ないました。

この日、午前に約6組、午後に約10組の子供から大人までの来館者に見学していただきました。話しかけると、「どうやって作ったのか」、「この動物は何か」などの質問があり、苦労秘話も含めすべてお答えしました。

この他、骨に直接触れたり、自分の手とシカの「手」にあたる骨を比べて見たりなど、ヒトとの違いを体験してもらい、それなりに反響を得た実感がありました。」